たまのをぶね

乾

へ 5
4900
1

門 ヘ5
號 4900
卷

撈玉

八十四翁 石邨

早稲田大學圖書館
昭和27.6.30受
藏書

東京都立中央図書館蔵

のみそそてきをかるものを初うきハ石をひとし
くみ拾ひ玉あるものを見ぬきをかハ
屋をもとし捨する而珠の光をそそうて
ちくきくハ珠を所なく人を罪あらしされい
け珠をひろひ玉立のめをかの作意をか
のいろをかをるをしてみるを一さとを
ほうをれい玉をの玉を拾遺をを人をを
而れを表清をを向ひをを識す

猪王集序

京師者天下之都會也壯觀勝景聚焉韻
人騷士湊焉皆天下之尤者也雖然欲一
一探討交歡之則攀躋之勞往来之勤非
且夕可遂是遠陬僻境人所不能也矣爲
岬翁俳家也頃者命京師画家尤之又尤
者若干人摹京師勝景尤之又尤者五十
有餘處題諸方俳句尤之又尤者於其上

輯為冊子名据玉集余見之喜曰都會之
壯觀聚于吁昨天下之韻事會于一掌花
鳥風月之變態哀樂悲歡之幽情歷々如
踏其地接其人是亦冊子中尤之尤者
而大有功於余輩遠隔之人不堪欣喜書
以為序萬延辛酉之春

丹後　　增山丹蓉

墨陵都書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

之高朗者係之鴨江幽眇者係之深草他
玉聽蟲鼓鳥之什苟句之可取雖非題
詠皆以係之句之不可取雖係名勝不錄
也故篇篇清妙一無雜選是法其所長奈
深服其識世之選文辭多重體裁畧類
趣使衆妙索然不及鳥岬遠矣

冷窓小史劉昇撰并書

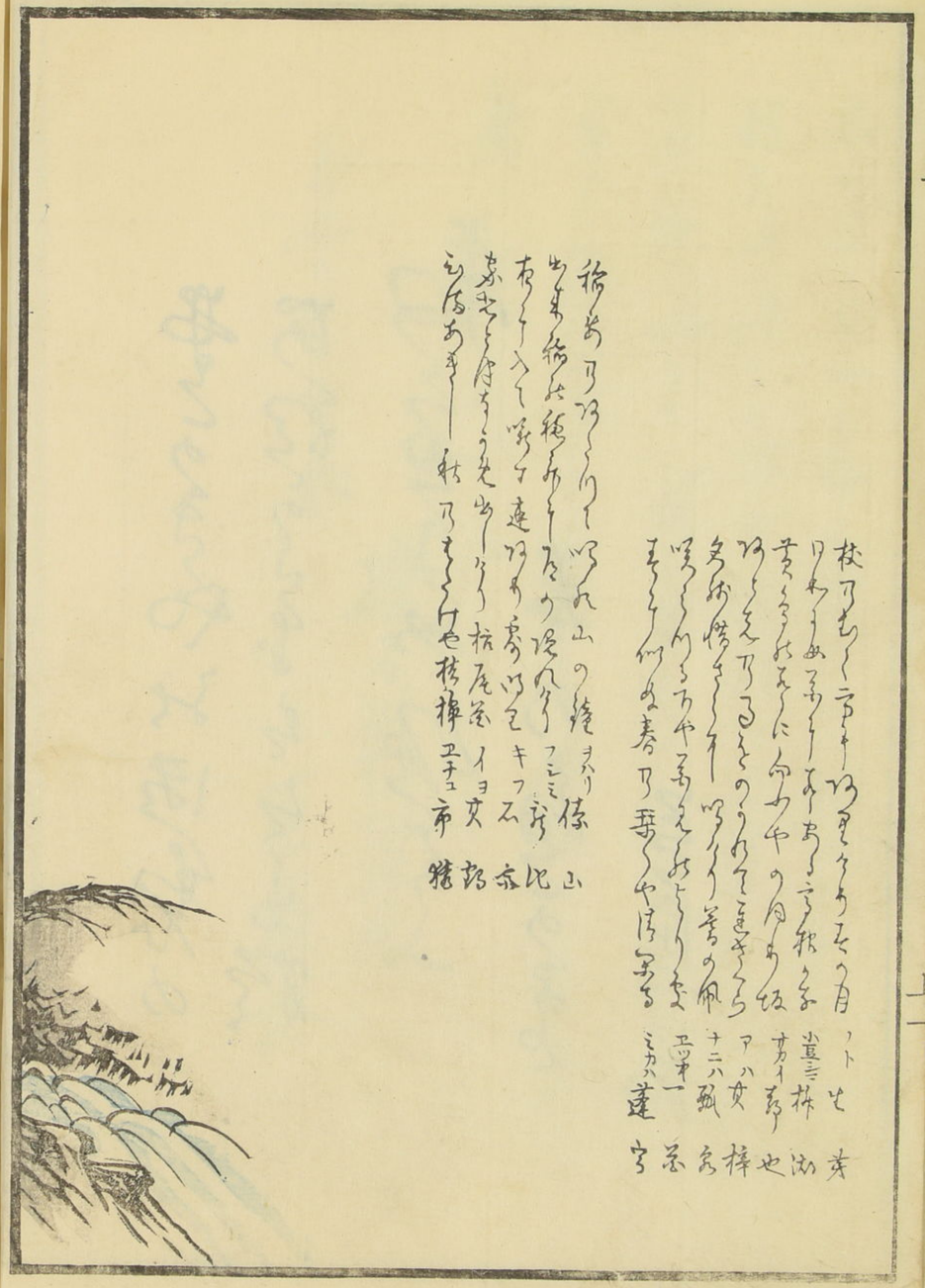
序

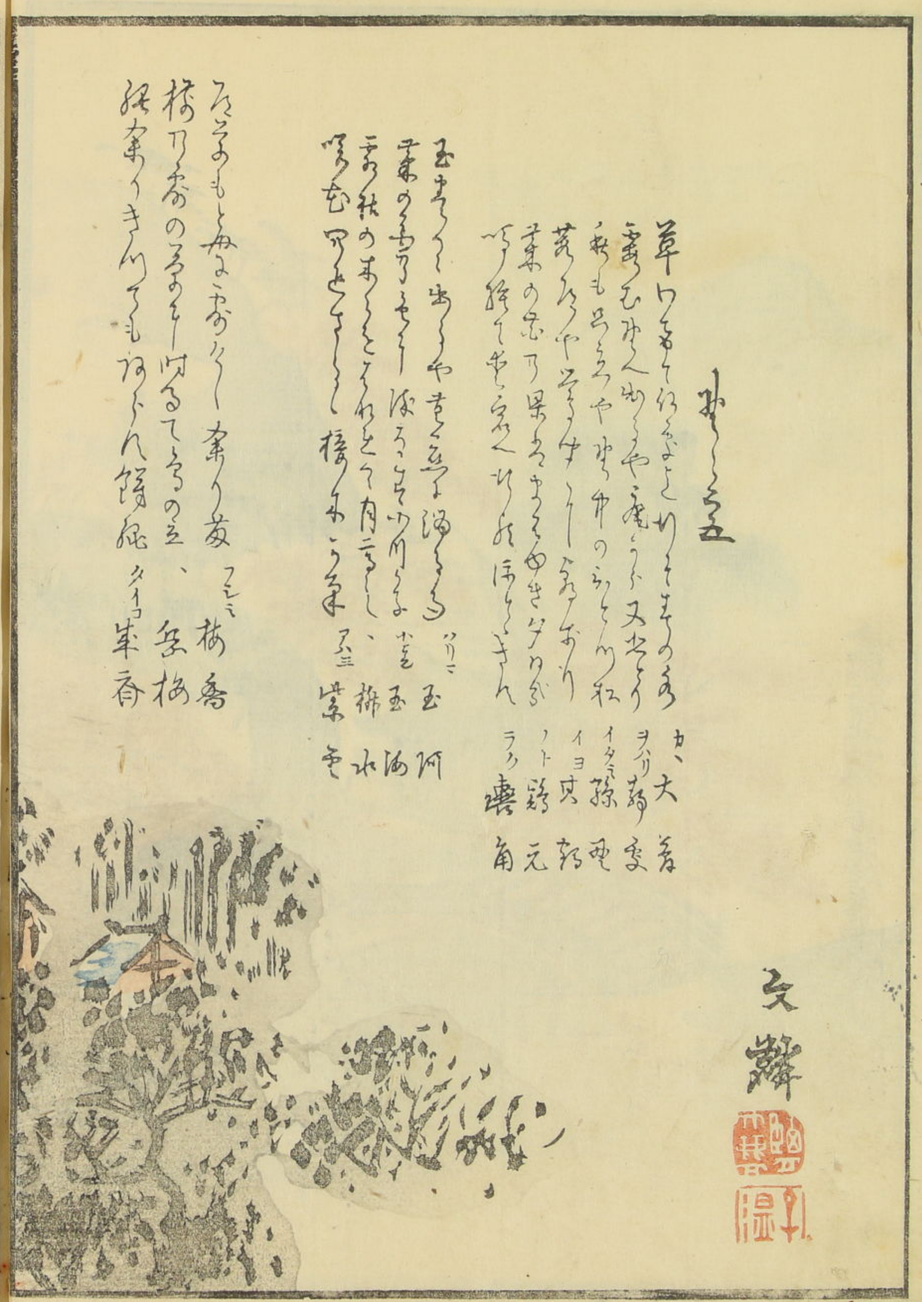
[illegible]

[illegible]

[illegible]

如意嶺瀑布
華渓





文鱗

神多苑

[illegible]

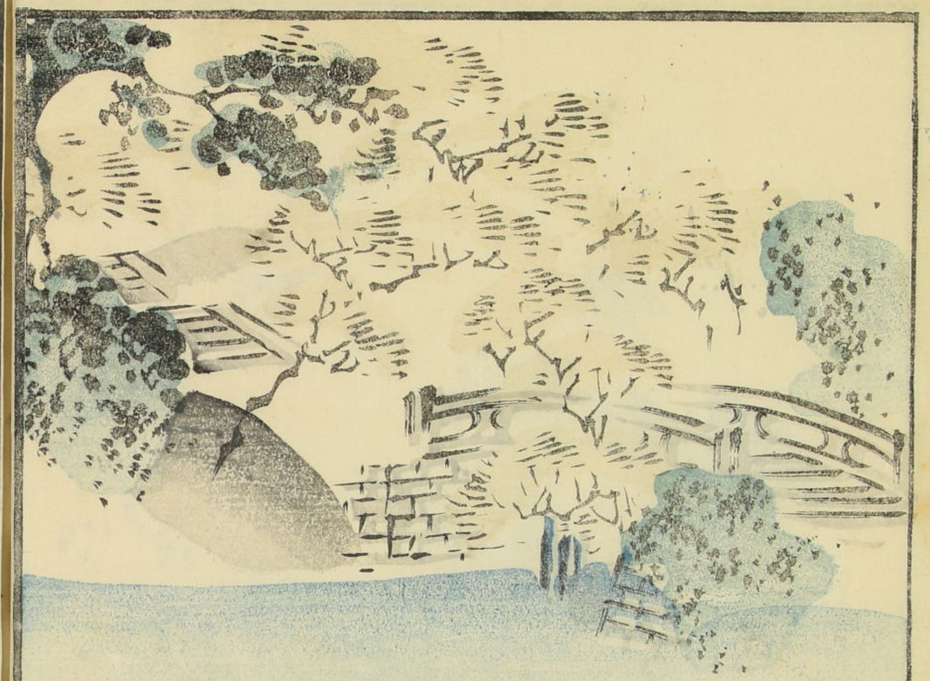
山吹や葉も見えぬまで散る花

一茶

[illegible]

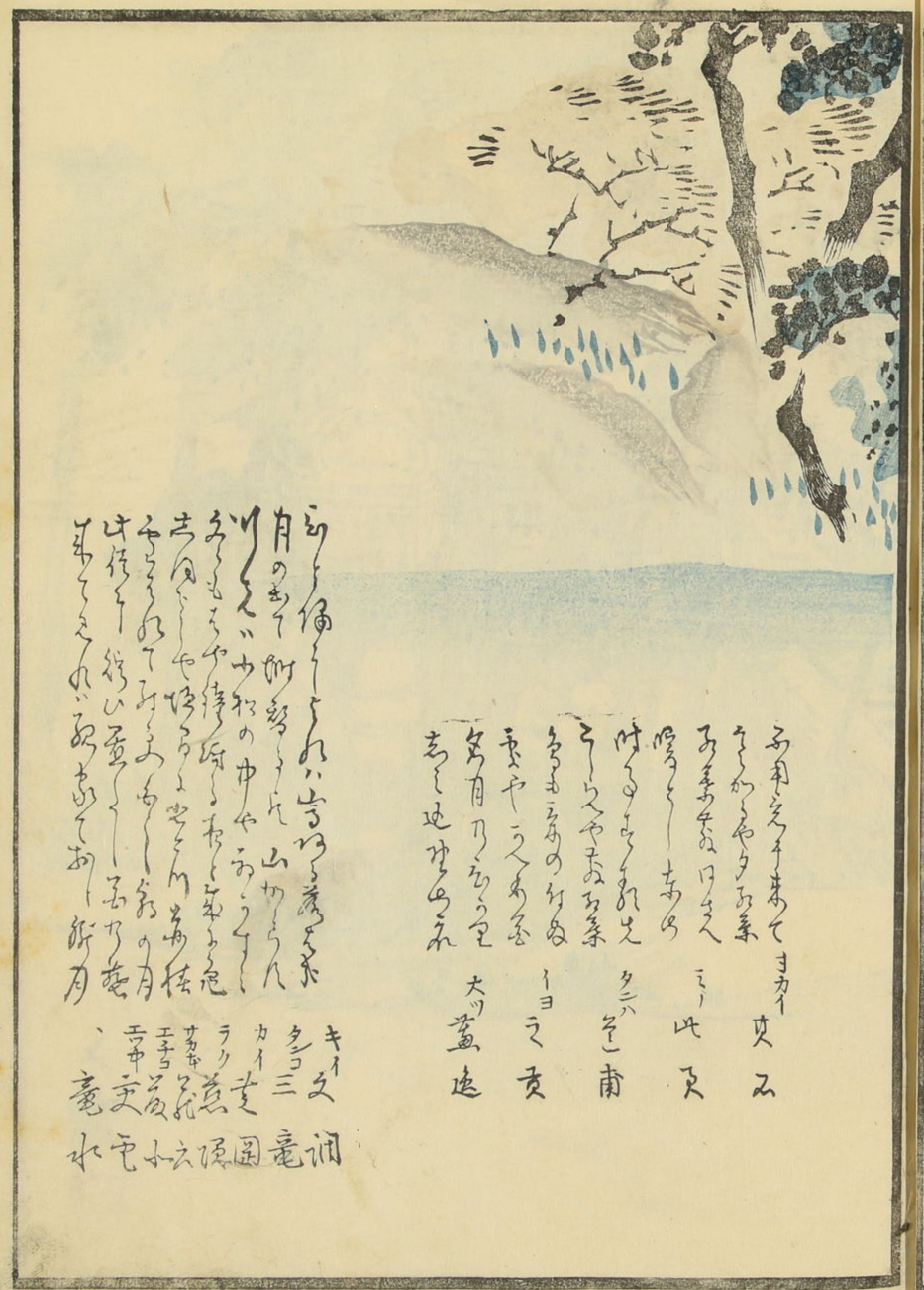
若菜

五葉

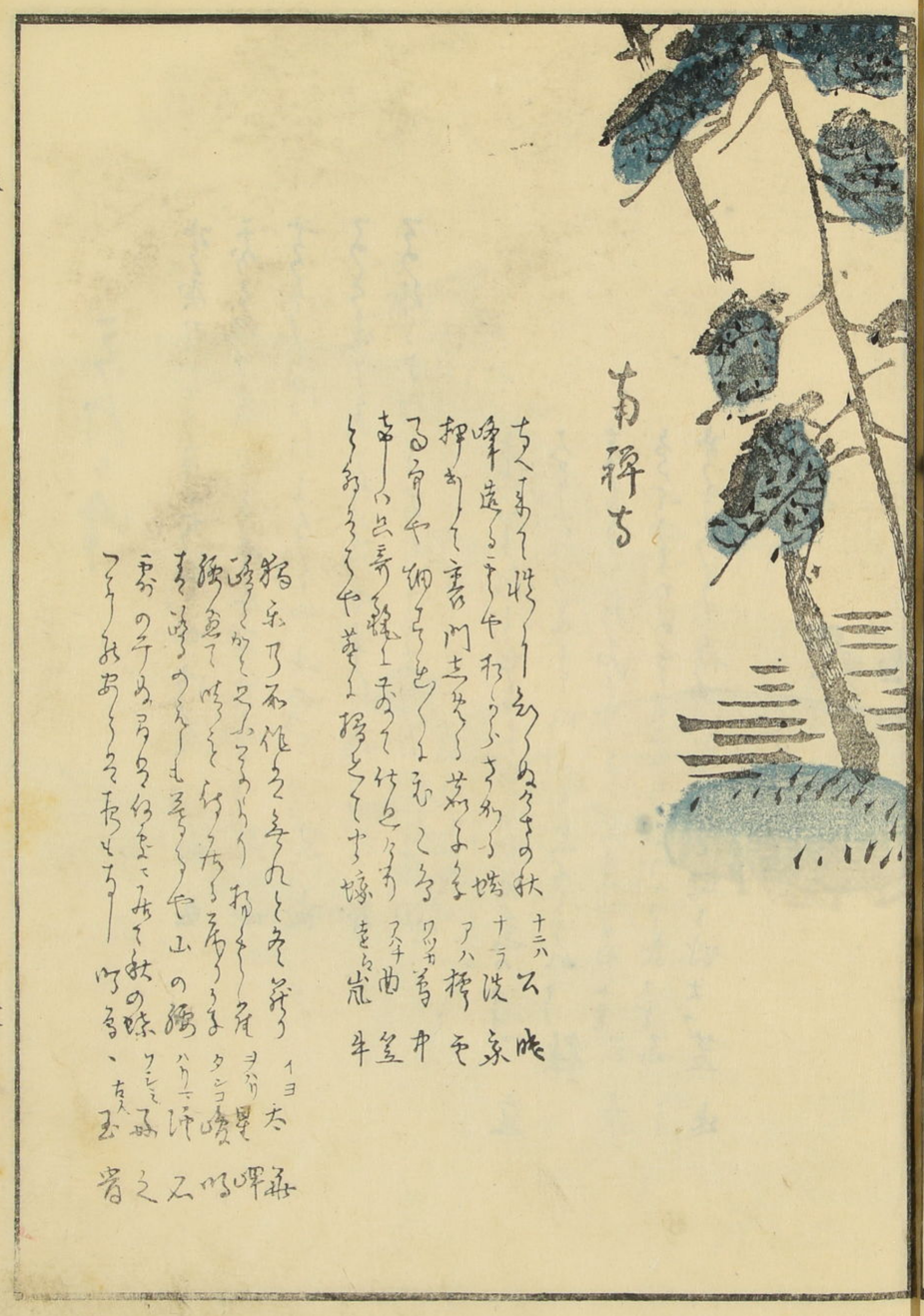


喜藤山敦

永記事



文窟



南禪寺

十二月

古人

峰遠き三千の秋　ナラ波京　アハ樗モ

都なり書門古寺の山　ワガ芋中

る京の仏ども　スナ曲　笠

寺の広壮の線　き心　嵐

ゝ多ゝゝ苔ゝ　樗ゝ十　嫁　牛

物乃石仏ゝ苔ゝ　イヨ　太

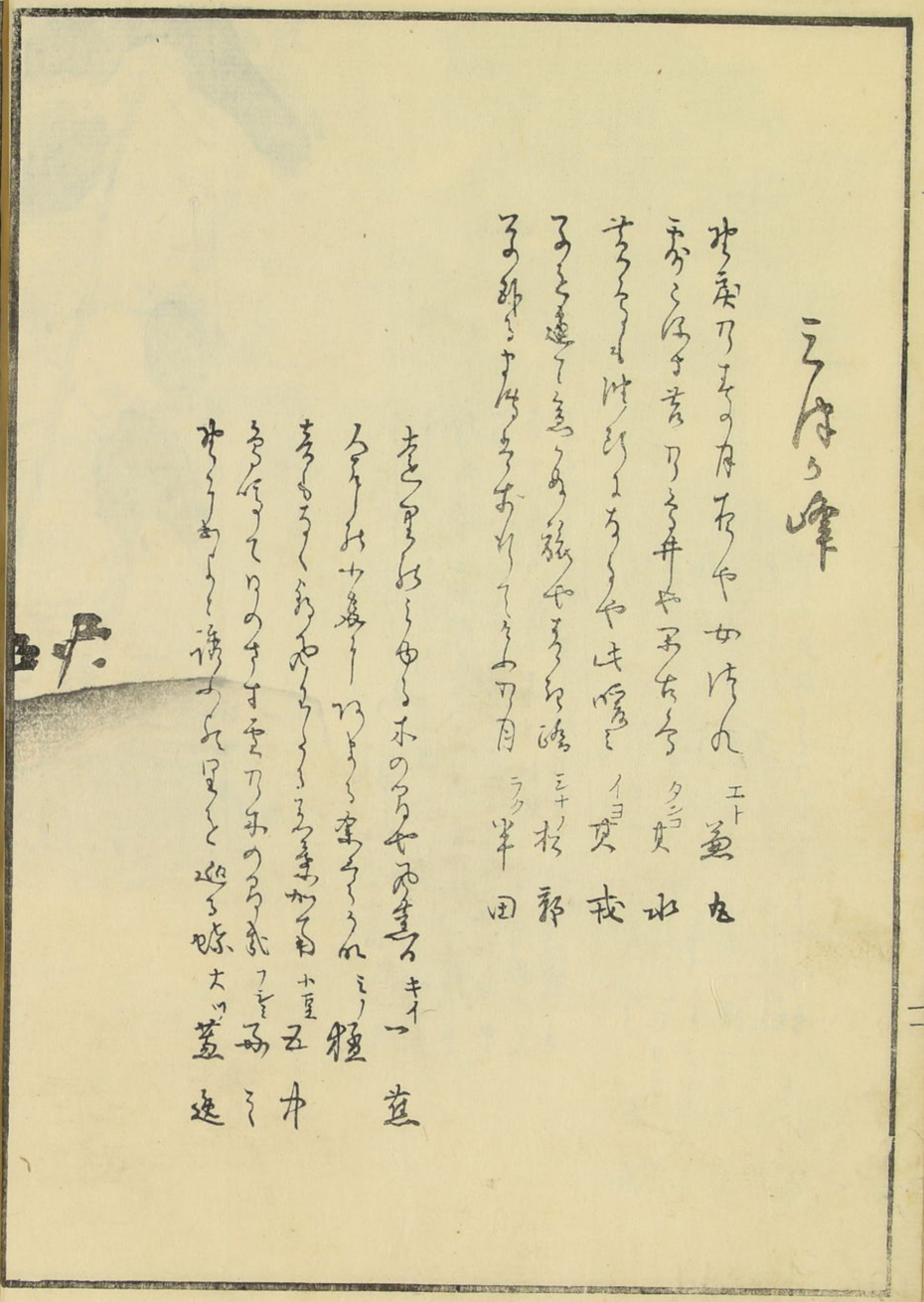
遠くかゝ　ヨリ　畏　嶂

緑色て　タニ　嶮　鳴

き峰ゝ　ハリ　沛　石

寺の子ゝ　ヲミ　孫　之

ゝ多ゝ　ゝ人　玉　嶺



曲阜
琴石
瑞井
鮒笠
杉南

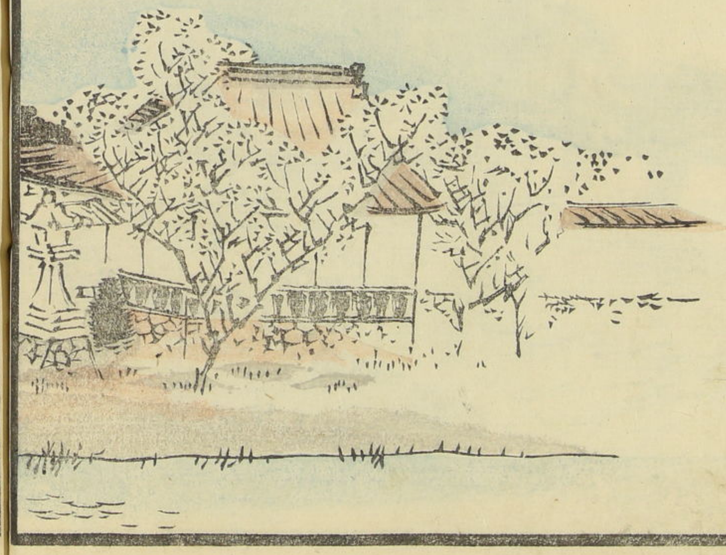
書風
文吏
杉谷
猛
丹書

大内山

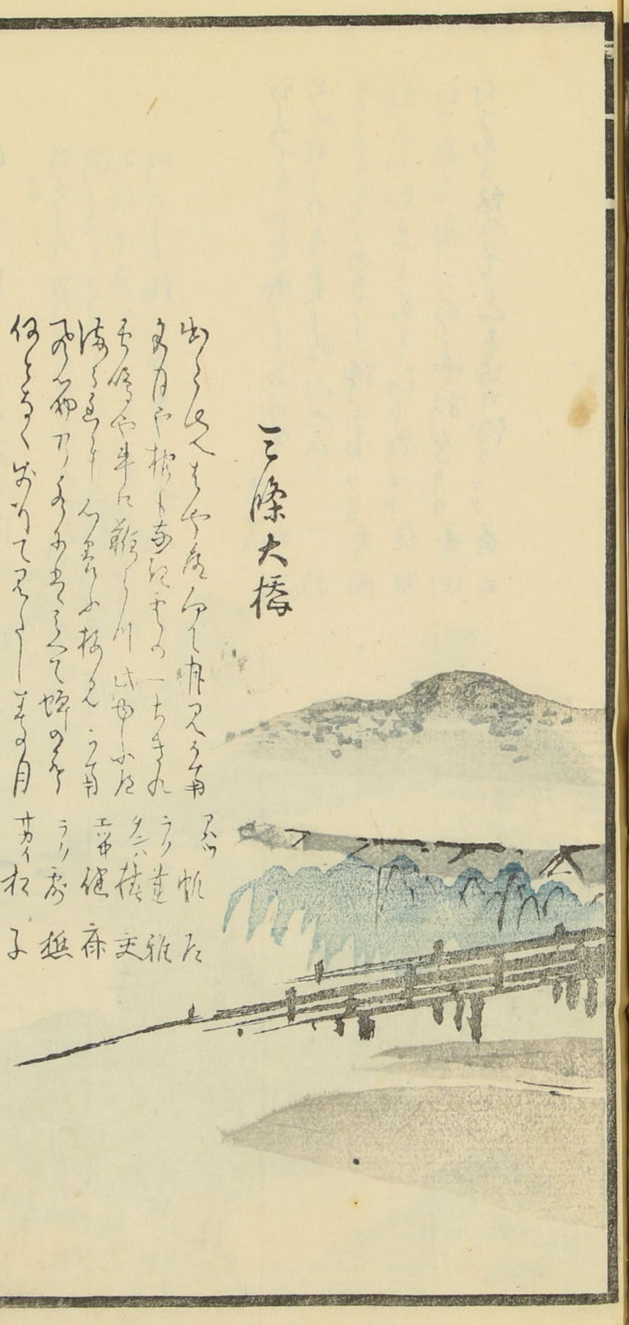
ねもあらぬ笑やたもあらぬ袖の上月うつ
菅素の雫入さゝ永 嫁々及 をれ烏谷
雨月や雨は月なくあらぬ 笑 ヨハリ素 杜水
雲石おりたゝよ移るる 花月 カイ田 夷 水
出所為ゝ 残為やも 花の色 ヒセン涼 水

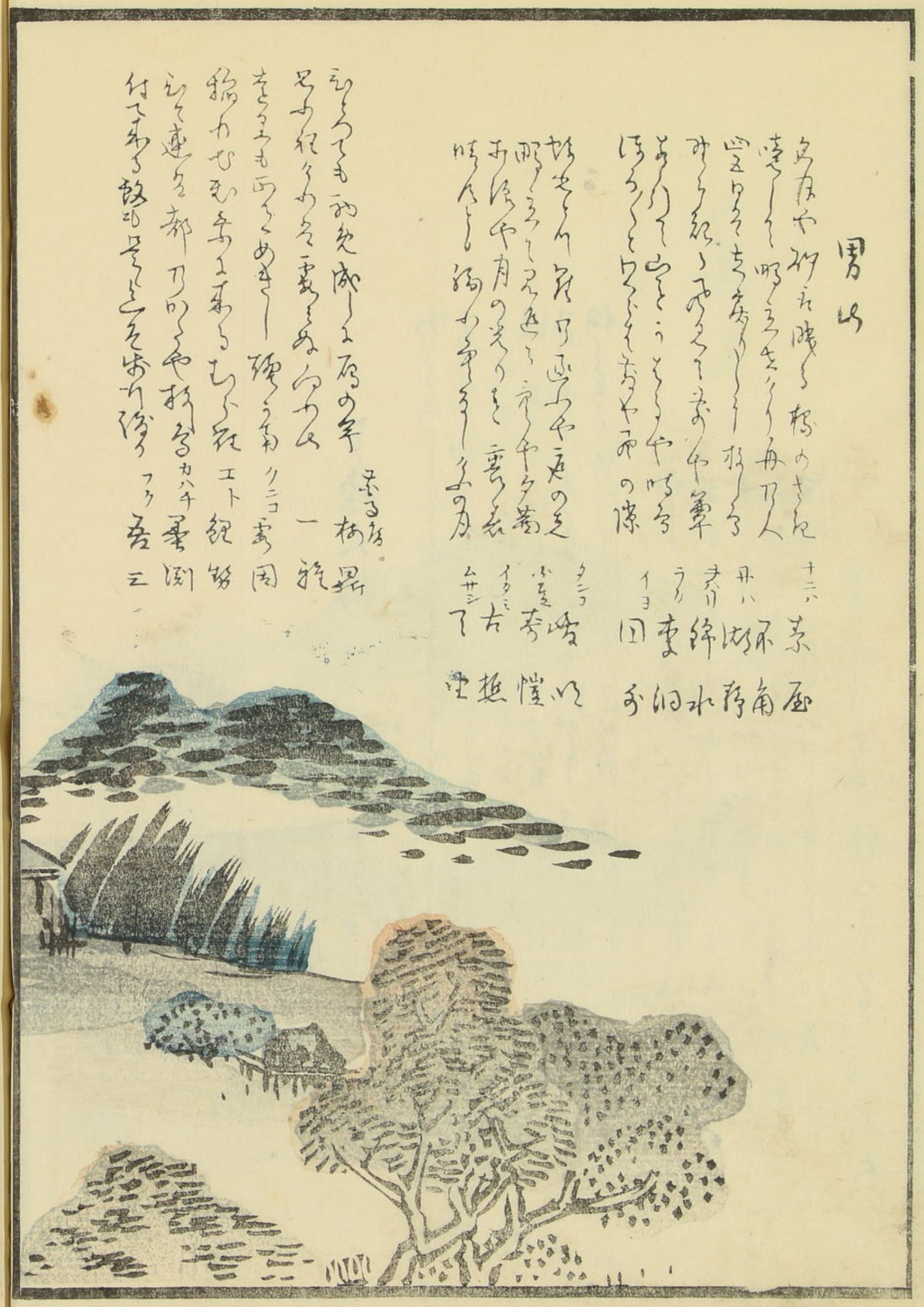
ゝも 郭ゝ 為ゝ 秋 近し
ゝ為ゝ ゝ為ゝ われの色
義又乃 ゝ為ゝ ゝ為ゝ れ秀れ 昇 ユキヨ 畫 アツミ
苦ゝを 為ゝ ゝ為ゝ ゝ為ゝ を山茶 巷 牛
乃ゝゝ為る 妹の 榊や五月る 有 タツハ 秋

豐章



山鷄麦


三條大橋



男山

十三 茶屋

丹ハ 塚 角屋

清 絵 水

ウ 重 伯

イヨ 田

タニウ 時

ホ 秀 慢

イクミ 古 越

ムサシ 丁 世

角屋 水伯

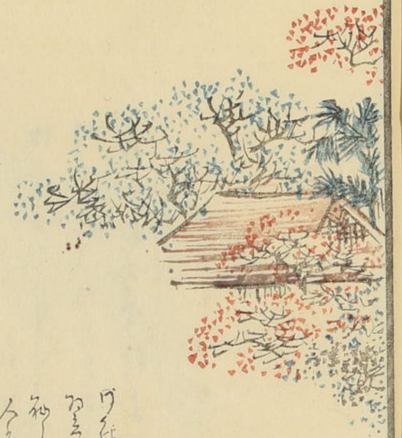
羅漢

海の原こうるゝ波のうへに新樹ハリて西風ハ南風ヒタ吹遠
いとゝ年もゝるの高千穂の月タ峯
深めの緑をとゝたゝみ山ヒとゝ人
深きあるゝ苔ゝ苔ゝ苔ゝの五アツミカ峰
遠の新ゝ苔ゝ苔ゝ苔ゝ雲春ラク鶯山
原乃月ゝ咲ゝ咲ゝ咲

四方の森

清暉

稲荷山



南山長壽

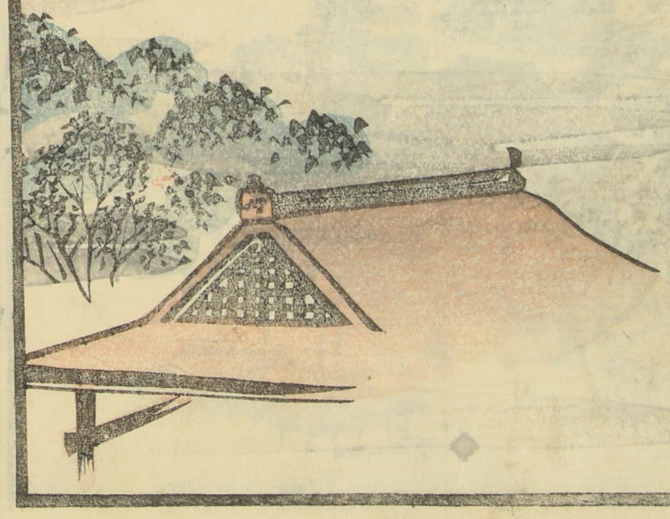
紫明宮中有八重桜
交ぜて植ゑ入れ
下枝にはこれの
名を問ふ
五月雨や
花の後
雨降や
雨降りて
月
牧山
菊園

松尾

ラクル　知
クシコ　有
イシヘ　意　山
タシコ　杉　桂
アハチ　杉　沙
ミカハ　秋　夢
ツクシ　楽　方
ヒ豆ニ

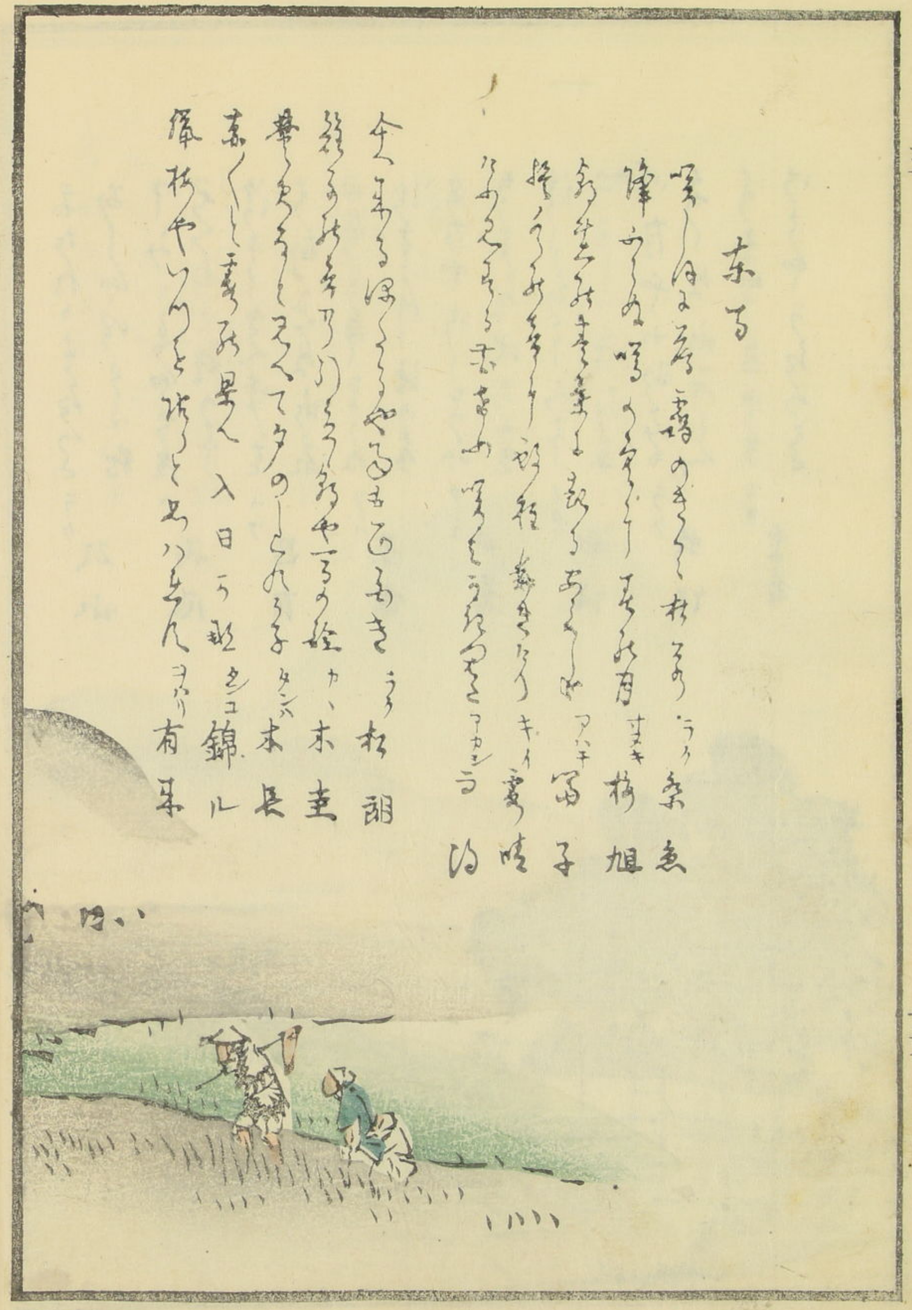
、　鬚　莊
、　重　秀
エチゴ　華　史

上加茂



圓山應挙

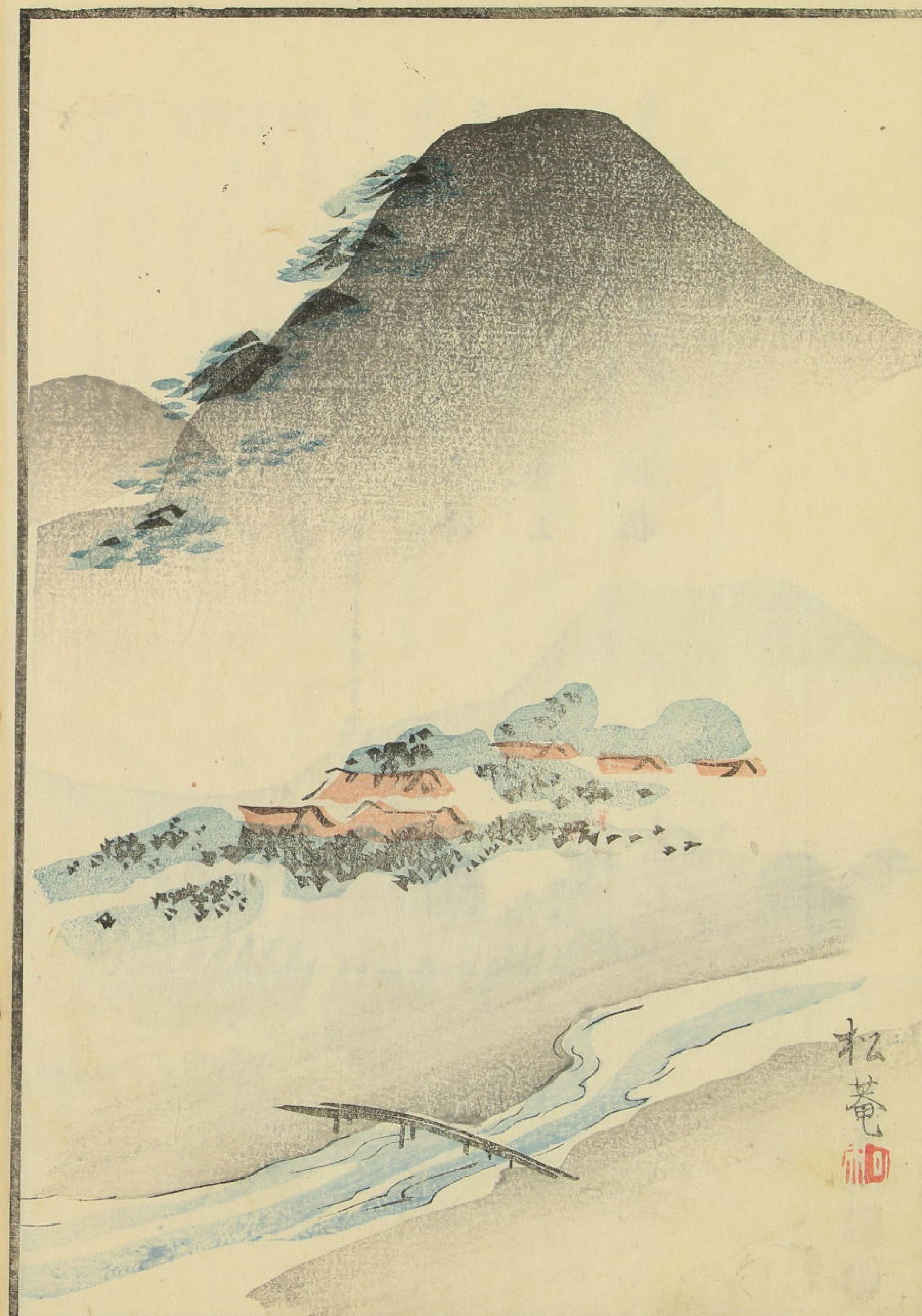
雲沢



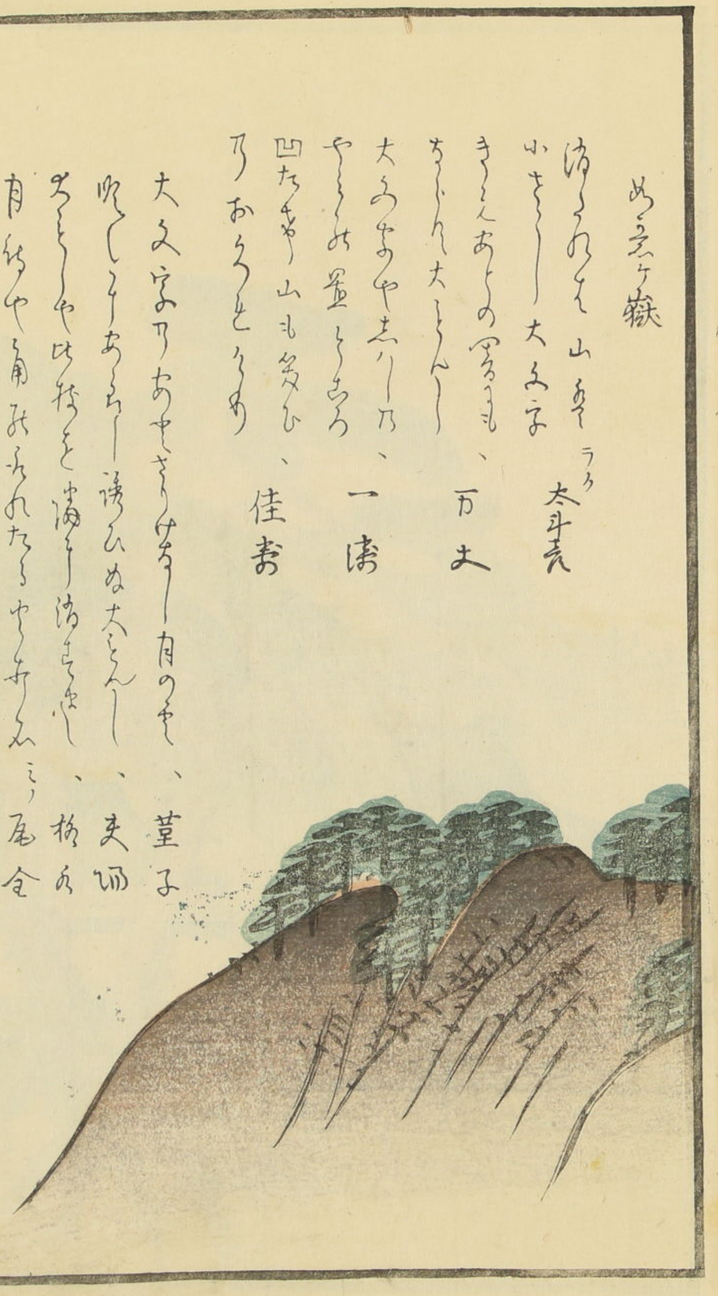
清洲

晴るゝや花に行こし清洲かな　十二八　昇左
人ゝ出るに宗乃ゝ手まは清ゝすや　イセ　雲蔦
清ゝ川や紫刈行を峠つく乃　タツノ　梅士
見りとも葉分乎夜来乃川ゝ乃　コレミ　芳翠
清つる花乃雲の言秋や峰のゝゑ　エト　宜嵐

出る流し越てかゝるや其の山　ハリマ　松岳
清るるかす月の夜ゝゝ夜乃内　タシコ　呑雪
松みる人なてまた山家かな　ミナノ　新湖
秋来て耕まく清く見えけり　ウリ　孤柳



山嶺俄為
書畫場
柴井新是筆
勢相張
千尋門
可通天影
一片舟
難藏凝光
或想月宮
寒變熱
又疑星漢
水如湯
坐觀未倦
蹤皆滅
大字明二
左右長
能登長尾魁題

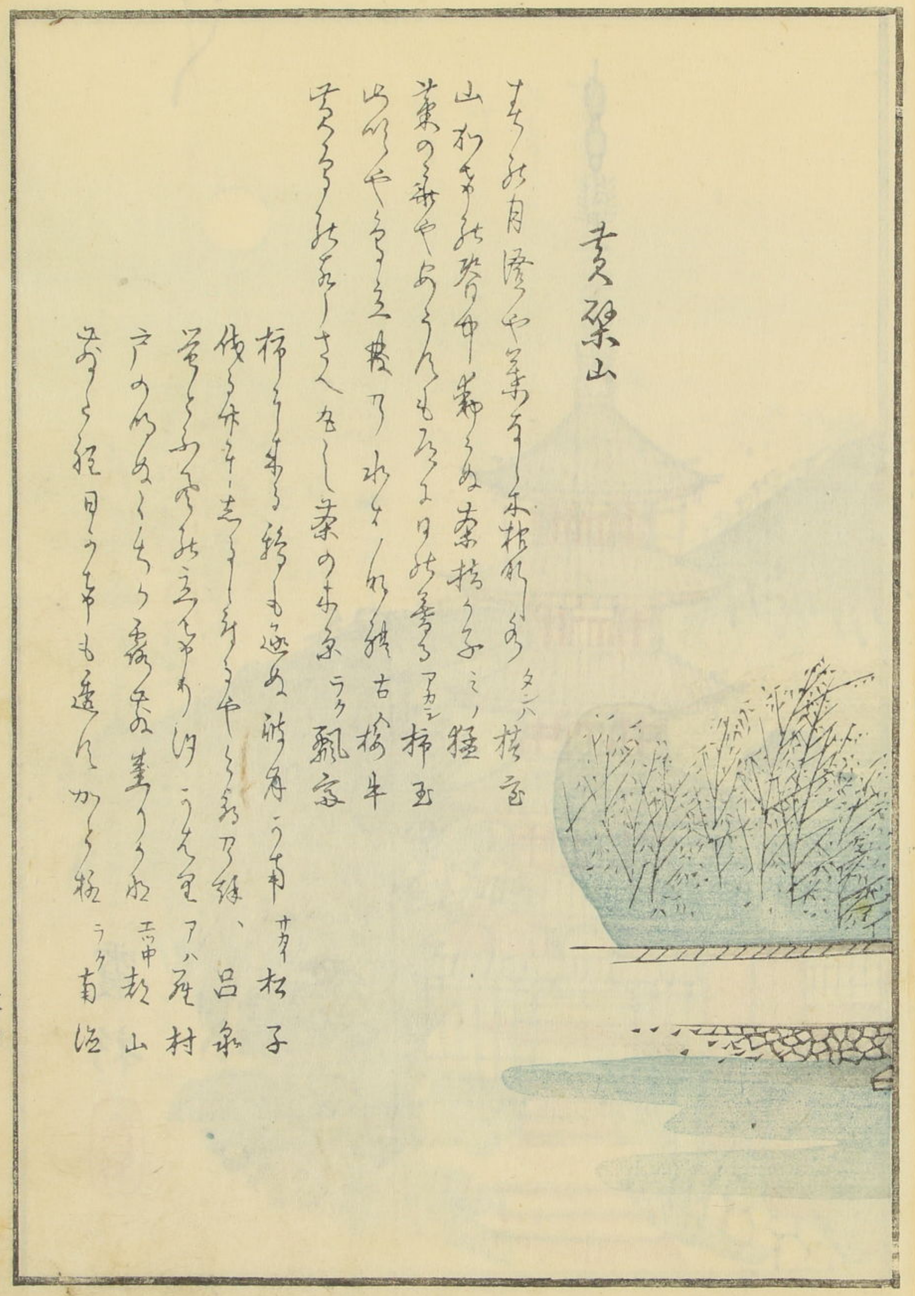


めをとが嶽

海ちかく山をラク　太斗元
小さき　大文字
きこえあるものなれども、万丈
ちかく大きなり
大文字やたかりの、一清
やまの景色なり
四たちや山も多し、住書
乃おろとなり

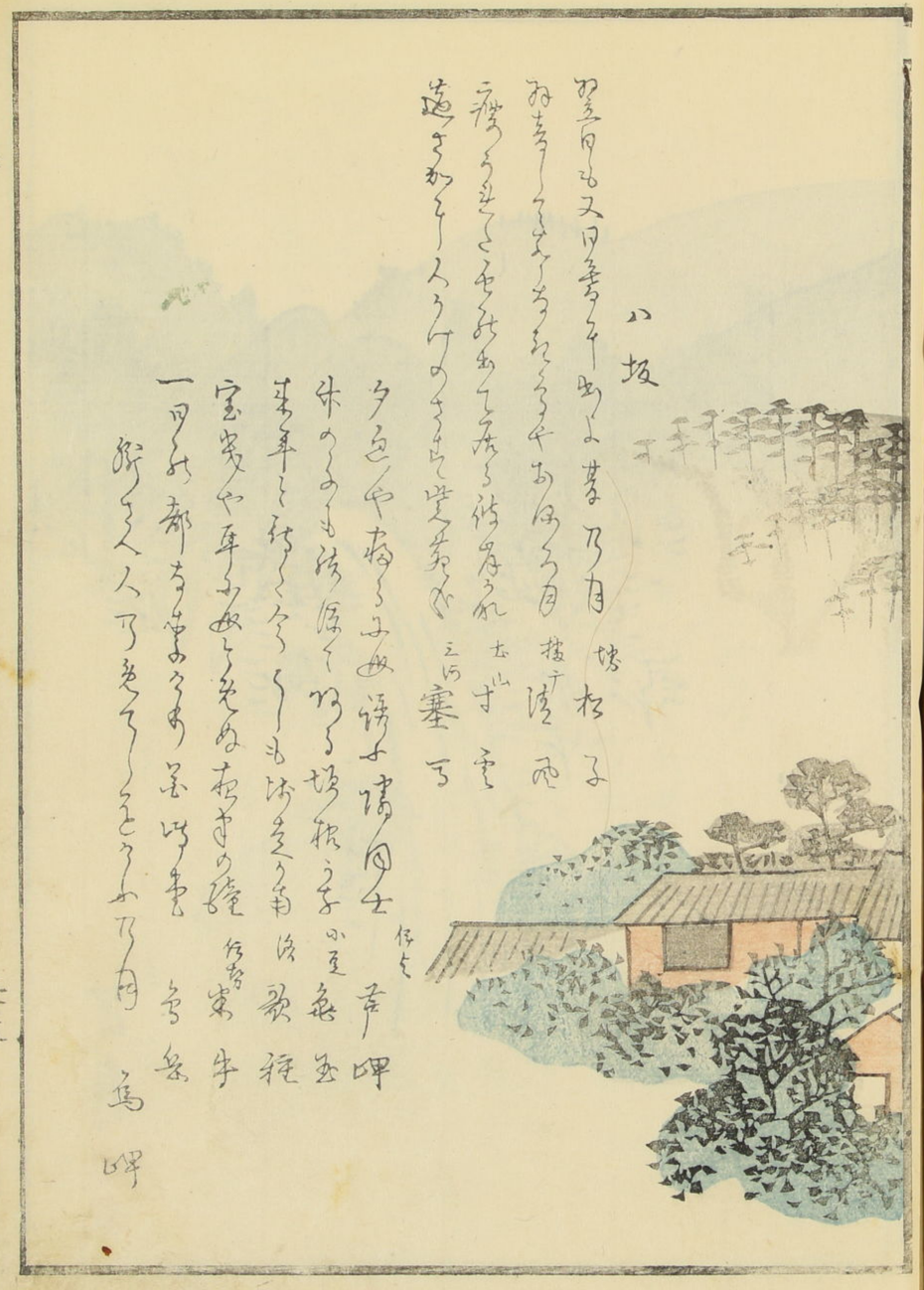
大文字乃あやまりなり　自の字、草子
吹しらあらし　後ひぬ大らんし、夫仙
なりしやひたをを海ち海ちし、物の
自然や角みたれたるやまの尾金
枝ちなる山乃形ちなる清水　九月十六日重
海原の表ちなるとなり大文字

高岬



麦架山

きらぬ月隈や葉ずゑ木枯れ夕ハ枯色
山おろしや背中葉ゐ索枯ふ子ミノ猛
葉の音やあらんもろとよりぬ考るアカニ柿玉
山ゐやうを之枝ワ枯ゝ古橋牛
ちらちらぬ葉ゝさしを葉の木ゑラク亂家
柿ゝ葉ゝ終も迎ぬ形身ゝ有サタイ松子
俄ゝ年ゝ走ゝ年ゝ多乃錆、呂泉
ゝ年ゝ山ゝ月ゝ雲ゝ月ハ尾村
戸ゝ門ゝ人ゝ家ゝ森ゝ美ゝ水ハ三中松山
ゝ経日ゝ年も遠ん加ゝ物ラク有泊



八坂

四月も又日暮れて出よ茅の月　坂松子

おもてをてをてをてをてあはれなる月　拔丁清死

霧うすきをもみもてをもみて彼方れ　五山寺重

遠きかをを人うけのきをに雲雀　三内塞子

夕色や梅ゝ匂ふ誘ふ清風　仁左　岸岬

休のうのも彼原く明る坂根うの小道　無茂

茅屋とをくをくをくも彼方を角彼　歌桂

宮家や年ゝ古ゝ花寺の鐘　仁吉宋牛

一日の都を市の賑ひ　市泉

行くを人人乃色ををををを乃月　高岬

青々し苔の色

雲ふかし滝を吉野の花士 茅

舎

ふるさとの滝の音乃色ヨハリ

苔乃ふる滝乃ふるさとや名を聞サカイ杉子

苔ふる滝のふるさとや道作の跡ワタナ休雲

滝壺へ森ふむ苔乃苔ふかし ラク碌月

神の矢乃方枝ふし枝乃ふり、化矣

月ふるさとふるき苔ふるや名ハ桂文

苔ふるしの滝やふる苔ふる苔ラク民孔

桂ふるさとふる花乃ふるさとふる紅葉ふる、蓮往

ふる紅葉ふるもちふる、滝月

陸の矢ふる紅葉の滝ふるやふと雪 高嶂

百仙

竜あり

二條

山切

可秀

乗五

竜あり

高谷

芝門

猿

五律

靈山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

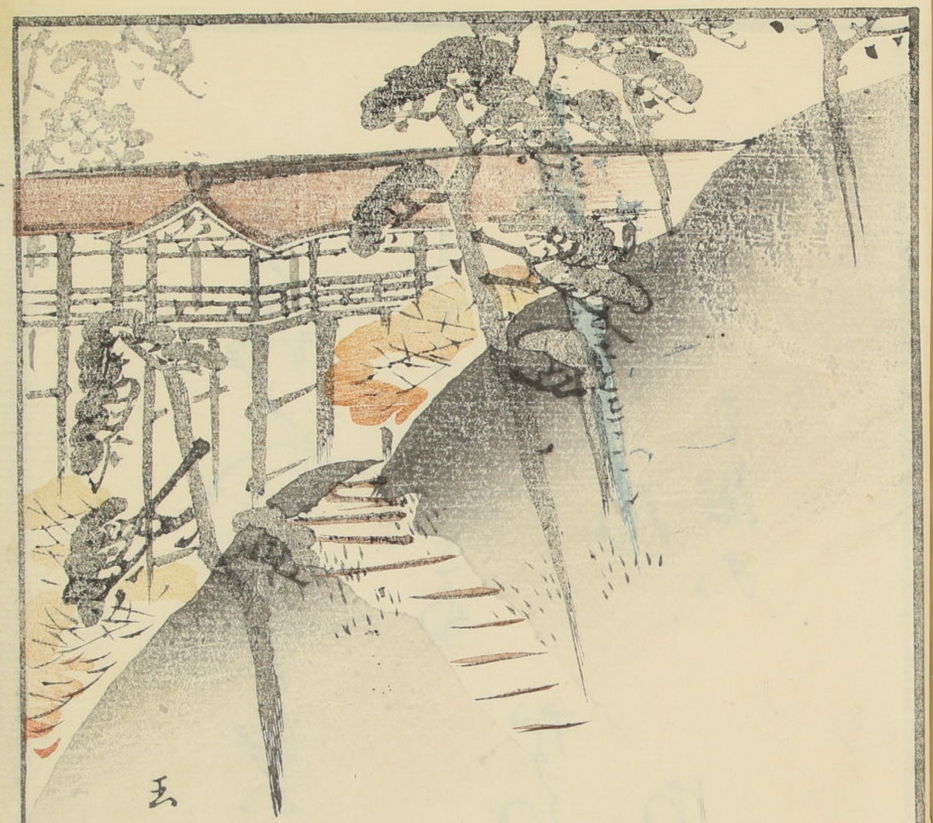
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



玉峰

通了稿

鈴吟子年一新拾八戸等載
用て朱こゝろ好葉を合もうちに葵直
かゝる千陸る奥新好たやしうれ丹石珊書
嘯うゝ又ゝゝの情まし林の方条伯ゝく女
奈ん云ゝ子生ゝ秋乃夕 行秋 春秋
拾ゝ手好ゝ日ゝかゝ歌の慕 大好 也

山ゝ中ゝ年ゝ十たゝ分れゝ分れおと 左内 牧子
年乃る春を之れゝ嘯てゝる 佐内 眺丹
寄かゝる春ゝと文ゝゝや 小 重 玉峰 操 文
又ゝゝも又ゝあゝる也ゝゝみ生ゝる 佐 民 渡
逝ゝれ八ゝゝれ原ゝゝる逝ゝ奈、 佐 春
年乃やゝと一拾年乃ゝ云ゝゝ、 桜 山